

原子力リスク研究センター（NRRC） 第7回 原子力経営責任者会議 議事録案

1. 日 時：2016年11月8日（火）10:00～12:20

2. 場 所：電力中央研究所（大手町本部）役員大会議室

3. 出席者：（敬称略）

主査：アポストラキス（NRRC）

委員：阪井（北海道電力）、渡部（東北電力）、姉川（東京電力）、阪口（中部電力）、西野（北陸電力）、森中（関西電力 豊松代理）、林（中国電力 古林代理）、玉川（四国電力）、中村（九州電力）、石坂（日本原電 市村代理）、石原（日本原燃）、浦島（電源開発）、横尾（NRRC）

オブザーバー：尾野（電事連）、中野（JANSI）、高橋、座間、酒井、植田（NRRC）

幹事：示野（NRRC）

4. 議 事：

(1) 2017年度研究開発計画

NRRCより、2017年度研究開発計画 概要について説明した。

（所長の主な発言）

- ・社内・プラント内のスタッフとのリスクコミュニケーションにおいては、PRA担当部署だけではなく、現場の運転や保守の部門がPRAから得られる知見を認識・活用することが重要だ。電力会社からの協力をいただきながら、プラント内の最適なコミュニケーション手法・プロセスを明らかにしていきたい。

(2) NRRC 活動状況

NRRCより、リスク情報活用推進（RIDM）チームの活動状況など、NRRCの活動状況について報告した。

(3) アポストラキス所長との意見交換

各社委員より、リスク情報活用に向けて、各社におけるビジョンおよび、人材育成・技術インフラ整備・社内の認識共有などの取り組みについて紹介があった。

（委員からの主なご意見）

- ・人間信頼性評価（HRA）については、会社毎の運転員の技量レベルといった要素も反映したプラント固有のPRAモデルを作り、オペレーション向上などに活用できることを期待している。
- ・自然外部事象に関する防波堤等の構築物のフラジリティ評価など、国内で整備が進んでいない部分について、NRRCのサポートを期待している。

(所長の主な発言)

- プラント固有の PRA を行うためには、立地条件や様々な起因事象を考慮することに加えて、機器の空間的配置の把握が重要だ。それには、プラントのスタッフに加えて、地震・津波・溢水などの専門家が参加し、体系的に機器の空間的配置などを特定するプラントウォークダウンが不可欠だ。

以 上